

朝日小学校 9月研修会

- 1 日時 平成28年 9月 9日(金) 9時40分～16時20分
- 2 場所 旭川市立朝日小学校
研究授業 1年2組 図工「いろいろなはこから」1年2組教室・広場
(兼「旭川市教職経験者研究協議会<5年研>公開授業」)
研究授業 2年1組 国語「つたえたいことをはっぴょうしよう」
2年1組教室
研究協議 図書室
- 3 参加者 講師 北海道教育委員会上川教育局 指導主事 木下 浩太
旭川市教育委員会教育指導課 主 査 常盤 慎一
朝日小学校 玉井 櫻井 北島 木村 町田 他全職員
青雲小学校 貝谷
新町小学校 亀卦川
永山西小学校 須賀 小林
近文小学校 三浦 長瀬

4 概要

(1) 1年2組 図工「いろいろなはこから」

研究内容2～「より主体的に学ぶ工夫」～アクティブ化シートB-①

①課題意識重視～材料に浸りながら触れ合い、発想・構想を繰り返す工夫

本題材の「創造的な技能」を高めるためには、まず自分なりの積み方や並べ方を試行し、自分なりの表現のイメージをもつ時間が必要であると考えた。そのため、題材を2時間分割にし、1時間目では、試行錯誤する時間を保障した。そうすることで、つくったり、つくり変えたりすることを繰り返しながら自分なりの表現をもち、並べ方や積み方の工夫について意識しやすいと考えた。また、本時の後半に鑑賞の時間を設定し、並べ方や積み方の工夫を伝え合い、全体で確認する時間を設定することで、友達の優れた表現に触れて生まれたイメージを自分の表現に取り入れたいという思いが生まれると考えた。題材の1時間目にこの学習を設定することで、造形遊びが漠然とした遊びにならず、より課題意識をもった活動になり、題材の目標が達成できると考えた。



題材の1時間目にこの学習を設定することで、造形遊びが漠然とした遊びにならず、より課題意識をもった活動になり、題材の目標が達成できると考えた。

＊授業の様子から＊

今回の授業のポイントは、導入での課題意識の時間を短く、簡潔で分かりやすくてよかったことだった。授業開始で、本日の課題である「はこを使って遊ぶこと」「ならべたり、つんだり」することへの意欲付けと課題意識を高めることが3分程度でなされた。

すぐに自分の使いたい箱を探しに行くと思い思いの場所で箱を並べたり、積んだりしながら楽しく「造形遊び」に浸っていた。

指導者は、活動を始められない児童を観察し、寄り添って声掛けする程度で、どんどん子どもたちが発想豊かに楽しく活動できていた。

一度片付けて(5分間で片付け)大型テレビを使って、本時で出来た作品の鑑賞を授業終末に行った。並べたり積んだりした箱が「何に見立てて」いるのか何名か紹介させ、さりげなく次時のねらいである「色と形」へも着目させていた。

最後に、1個だけ次の時間に使う箱を「予約」として取りに行かせたところ、自分の使っていた箱の中から1つ見付けてきたことが印象的であった。



(2) 2年1組 国語「つたえたいことをはっぴょうしよう」

研究内容2～「対話的な学びの工夫」～アクティブ化シートB-②

②対話重視～「発表を聞いてもらうことで、自分の課題を改善し、『もっと話したい』につなげる。」

本単元では、1年生へ「お気に入りの動物」を紹介することを目的に学習を進めていく。しかし、1年生に聞かせるつもりで内容を考えても、つい自分本位で話してしまったり、表現が難しくなってしまうことがある。また、発表への不安から本来の力を発揮できないことが予想される。そこで、1年生への発表前に「声の大きさ」や「丁寧な言葉遣い」などに関する自分の話し方について課題を見付け、それを友達に発表することを通して改善を図っていく。課題が改善されたことが「もっと話したい」「もっと上手になりたい」という気持ちにつながる。また、新たな課題を見付け、改善することが繰り返し行われることで、「もっと話したい」「もっと分かりやすく話したい」という気持ちが強まると考えた。友達の声かけから話し方がどんどんよくなる



ことを実感させることで、児童の自信につなげていきたい。

授業の様子から

2年生は、生活科の飼育活動でモルモットの飼育を体験し、お世話したモルモットを返すため、1年生と一緒に旭山動物園へ出かけてきた。その時の体験をもとに、「自分のお気に入りの動物を1年生に伝えよう」という課題意識で本単元に取り組んでいた。

本時は、「声の大きさ」と「丁寧な言葉」に気を付けて、自分のお気に入りの動物を分かりやすく伝えるためのグループ活動が中心であった。

導入場面が丁寧すぎて、時間を掛け過ぎた説明が繰り返された点が課題であった。

しかし、3人組のグループでは、主体的な学びの姿が多く見られた。聞く2人は、1年生の役割をしながら、分かりやすく伝わるようになっていたか、対話しながら確かめ合っていた。

授業終末の振り返りでは、「声の大きさが大きくなってよかったです。それは、〇〇さんと□□さんと一緒に学習できたからです。」という、本時で意識させる資質・能力に加え、共に学ぶ仲間意識へも目を向けさせていた点がよかった。



(4) 研究協議

参加者が各授業で見つけたよさや改善点をピンクと水色の付箋に記入したものを各授業ごとのシートに張り付けてから研究協議をスタートさせた。

図工と国語の2グループに分かれて付箋に書かれた意見や改善案を基に、今回のアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた工夫は、ねらい達成のために効果的であったのか協議した。次に、各授業者が、協議内容を基に、成果と改善の方向について発表し、全体から意見をもらった。

(5) 助言内容から

- ・次期学習指導要領が「学びの地図」である。
- ・資質・能力を高めるためにアクティブ・ラーニングを使う。
- ・国語・図工ともに1時間主体的に取り組んでいた。

(図工)

- 体を動かす活動は、内容を伴って理解し、知識となる。
- 今回着目してほしい「色や形」について、指導者が力説するのではなく、自然に与えていた。
- 指導案と授業内容とがぶれていない単元構成であった。
- 見通しについて、物理的感覚だけではなく、最終的にどのような形になっていればよいかということ、向かっていくイメージがもてたか。

※時間的なものは、教師が調整すればよい。



(国語)

- 資質・能力はぶれていない、つくり込まれている。
- 国語の課題は示しづらいが、目的意識を具体的にすることができていた。
- 1年生に「よく」伝わるの「よく」が、今回話す内容や思いで明確にできるとよい。
- 国語は、もっと「思い」を出してもよいのではないか。



※今回の9月研では、指導案での具体化も含めて、「本時で特にかかわる資質・能力」について大切にしてい取り組むことができた。11月の実践発表会で、各指導案と授業で広く発信できそうである。